

第1回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立市岡高等学校
校長名	辻本 利勝

開催日時	令和5年6月22日(水)16:00~
開催場所	大阪府立市岡高等学校 2階 会議室
出席者(委員)	深野康久会長、岸野圭吾委員、中田昌彦委員、 木村幹彦委員、中山貴詞委員、前川勝則委員
出席者(学校)	辻本利勝校長、島和広教頭、河村未来首席、柴田卓首席、島田浩史教諭、 森谷晃子教諭、江原祥太教諭、広瀬紳之介教諭、百瀬玲七教諭
協議資料	・市岡高校卒業生の進路状況と入試結果 ・令和5年度 学校経営計画及び学校評価 ・令和6年度使用教科用図書選定理由書 ・令和5年度 第1回授業アンケートについて ・スクール・ポリシー案 作成要領 ・スクール・ミッション（設置者案） ・スクール・ポリシー案 提出用紙
議題等	
(1) 学校長あいさつ (2) 確認・報告事項 ①「教員の授業とその他の教育活動に関する意見書」について ②令和5年度学校経営方針、取組みの状況と令和4年度卒業生の進路状況等について (i)令和4年度卒業生進路状況について報告 (ii)令和5年度「学校経営計画および学校評価」について ③「令和5年度使用教科書選定」について ④ 令和5年度授業アンケート実施について (3) 協議 ・スクール・ポリシー策定について ・学校経営計画目標数値について	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
(2)確認・報告事項 ①「教員の授業とその他の教育活動に関する意見書」について ・特になし	

②令和 5 年度学校経営方針、取組みの状況と令和 4 年度卒業生の進路状況等について

(i) 令和 4 年度卒業生進路状況について報告

- ・ 9 割以上の生徒が大学に進学。
- ・ 令和 4 年度の国公立大学進学者は現役で 26 名。(例年とほぼ変わらず)
- ・ 後期試験まで粘った人が合格を勝ち取っている。「最後まで諦めない、粘る指導」を実践。
- ・ きめ細やかで綿密な指導が今後も重要である。
- ・ 今後は、バリエーションに富んだ志望校への合格に力を入れていくと同時に、関関同立大学への現役合格者数を増やしていくのが目標。令和 4 年度には、共通テスト利用をして受験した生徒数が増えた。

(ii) 令和 5 年度「学校経営計画および学校評価」について

- ・ 進路実現・部活動・学校への取り組みに力を注ぐ学校を目指す。
- ・ 堺・和泉方面から通う生徒の数が増えている。
- ・ 国公立大学に最後まで粘らせる姿勢は変えない。
- ・ 生徒授業アンケートの結果は、高評価。
- ・ 9 割の先生が ICT を活用した授業を実施している。プロジェクター設置に伴い、やりやすいように授業を変化させている。また、学級毎にクラスルームで連絡をしたり配信をしたりもしている。
- ・ 欠席ではなく遅刻をする生徒の数が増えている。遅刻数が年合計で 2000 件になりかけている。その為、遅刻数が 1000 件を切ることに挑んでいる。
- ・ 学校行事の満足度は 9 割を超えており、学内活動だけでなく、海遊館等外部施設での活動にも取り組んでいる。
- ・ 働き方改革の推進については、職員会議の際の資料ペーパーレス化や朝の職員朝礼を 1 回に減らすといった取り組みを実施。また、朝 8 時から 8 時 30 分までの欠席電話対応をアプリ対応にする準備を進めている。
- ・ 部活動加入率は 8 割を超えており、ダンス部やかるた部で全国大会出場者も輩出している。
- ・ 今年度、1 年生は夏休みに 1 泊 2 日で勉強合宿を行い、大学の講義や自習のやり方を学ぶ。希望制且つ有料ではあるが、申込者多数。

③ 「令和 5 年度使用教科書選定」について

- ・ 6 月 30 日を期限に、令和 6 年度の授業内で使用する教材を選定する。

④ 令和 5 年度授業アンケート実施について

- ・ アンケートは、各教科と協力してペーパーレスのもので実施する様に対応中。

(3)協議

[スクール・ポリシー策定について]

- ・各学校に、入学から卒業までの教育活動の指針となるスクール・ポリシーを策定し夏休み中に提出。それに向けて、10年毎に学校組織の普遍的・中心的価値や存在意義を示したスクール・ミッションの策定が求められる。

[提示されたスクール・ミッション案に対する感想、意見]

- ・「自彊の精神」が重要視されるようになった歴史的背景を踏まえ、その令和版を設定する必要がある。
- ・自由な校風が知られているが、自由な中でも守らなければならないものがあることを分かっている生徒像を入れた方が良い。
- ・歴史がある中で自由なスタイルが重要視されており、その部分を組み込んだ方が良い。

[学校経営計画目標数値について]

進路状況や満足度等、全ての数字が驚く程良くなっている。数字を上げ続けることは、これ以上は難しいので、無理のない範囲で何を削るかを考えていく方が良い。今がその過渡期であり、今までは個々に行われてきた仕事のシェア、資料の整理、組織の再編が必要である。

数値が上がって来るといったいいっぱいになる為、全部を頑張るのではなく、何か学校の特色を出すことに力を入れてはどうか。学校のカラーが出せるようになる、また別の目標を作ればどうか。

[各立場からの市岡高校についての感想、意見]

教員の働き方改革については、従来19時からのPTA議会を、事前にLINEで議題を伝えておくことで実行委員会に持っていきやすくするという様に、PTAからも動いていることがある。

学校に親が付いて来るといったことが見受けられる。親から中々離れられなくなっていることが遅刻や不登校に繋がるのではないかと。生徒同士の横の繋がりが薄くなっているのではないかと感じられる。生徒の自立の部分が重要になって来る。

他校に比べていじめが少ないという印象がある。個性のある子を尊重して扱い、楽しいところに目を向けようとする子が多い様に思われる。人と人とのコミュニケーションの時間を大切に。

進路について、最後まで諦めない姿勢は大切なので、それが子どもたちにより伝わるようにすべきである。